

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(明徳幼稚園)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 遊びの充実(意欲的に自分の力で遊びこむ子どもの育成) 2. 豊かな心の育成(自身で体験して心動かす生活の充実を目指す) 3. 規範意識の育成(自律心の育成と友達との協働活動の充実を目指す)

2 1回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 				<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施結果、その他指標の結果について整理 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自己評価</th></tr> <tr> <th>評価日</th><th>平成26年10月14日</th></tr> <tr> <th>評価者・組織</th><th>学校評価委員会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <th>分析(成果と課題)</th><th>自己評価に対する改善策</th></tr> </tbody> </table>		自己評価		評価日	平成26年10月14日	評価者・組織	学校評価委員会	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校関係者評価</th></tr> <tr> <th>評価日</th><th></th></tr> <tr> <th>評価者(いずれかに○)</th><th>○学校運営協議会 学校評議員</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <th>学校関係者評価による意見</th><th>学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策</th></tr> </tbody> </table>		学校関係者評価		評価日		評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
自己評価																									
評価日	平成26年10月14日																								
評価者・組織	学校評価委員会																								
分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策																								
学校関係者評価																									
評価日																									
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員																								
学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策																								
1 遊びの充実	子どもの安定と生活への意欲	・一人一人が安心して生活できるよう信頼関係を丁寧に結ぶ。	子どもは喜んで幼稚園に通っているか	そう思う・大体そう思う 保護者が98%	⇒	・子どもたちが安心して、また喜んで幼稚園に登園しているものと思われる。 ・子どもたちが遊ぶことを意欲的に楽しんでいると保護者が捉えている。	・引き続き一人一人の安定を図れるよう、個に応じたかかわりを大切に、家庭とも連携を十分にとっている。 ・どの子どもたちにも、夢中になれる遊びを保証できるよう、個の把握に努め、環境作りや実践に努力を重ねる。	⇒	・子どもたちが安定して、園生活を楽しんでいることは喜ばしい。	・子どもたちの遊びの充実に向けて協力できる行事があれば協力していきたい。															
	保育内容の充実	・教職員間の連携を十分にとりながら、保育内容の充実を図る。	子どもは自分から夢中になって遊んでいるか	そう思う・大体そう思う 保護者が98%																					
2 豊かな心	豊かな体験活動の実践	・豊かな自然と地域との連携を生かした体験活動の実践。	様々な体験活動(園外保育 田んぼ遊び・生き物・栽培物とのかかわりなど)に心を動かしているか	そう思う・大体そう思う 保護者が98.5%	⇒	・本園ならではの体験活動や自然体験に意欲的だと保護者が捉えている。 ・読書活動については、家庭でできていない、読んでいない、と評価する保護者がいる。	・今後も豊かな自然が生かせるよう教職員で研さんを重ね保育に取り入れていく。 ・子どもたちの読書ノートの様子を把握し、100冊読めた際の賞状についてのアピールや、読み聞かせの意義などについて知させていく。同時に保育での絵本の活用を重ねていく。	⇒	・園ならではの豊かな自然体験が子どもたちの心を育てているということを再確認できた。絵本の活用について、地域ぐるみで支えていくこともできるのではないか。	・引き続き田んぼ遊びやお月見会などに協力し、子どもたちの豊かな経験を保証したい。 ・地域の人材を生かして絵本の読み聞かせをするなどの企画も立ち上げてみることができるのでないか。(岩倉図書館の利用も考える)															
	読書活動の充実	・読書ノート「親子で絵本」の活用。週一回の絵本貸出し。保育での絵本	絵本を親子で楽しんでいるか	そう思う・大体そう思う 保護者が87%																					
3 規範意識	基本的生活習慣の向上	・身の回りのこと、集団生活でのルールがわかりやすくできるよう環境の工夫および個別の支援	・子どもは自分のことを自分でしようとしているか、子どもは物を大切にし後片付けを自分からしようとしているか	そう思う・大体そう思う 保護者が78% 後片付けに関するものは6	⇒	・身の回りの始末や片づけについて園でも家庭でも適合度がやや低いと感じる。 ・友達との生活は楽しんでいるが、相手と思いを出し合ったり伝え合ったりすることには個人差があると思われる。	・生活習慣についての個々の育ちを把握し、引き続き個に応じた支援を重ねていく。・友達とのかかわりについて十分に把握し、その子どもに育つてほしい姿を明確にして支援する。	⇒	・自分で身の回りのことができる力を育成する必要がある。	保護者との連携をしっかりととして、家庭生活中でも親が意識して子どもにかかわっていかなくてはいけないと思う。															
	友だちとの遊びを楽しむ力の育成	・友達とかかわる姿の把握、個に応じた仲立ちや支援。保育プログラムの工夫	・友達に自分の思いを伝えて遊んでいるか、友達の思いを聞いて遊ぼうとしているか	そう思う・大体そう思う 保護者が80%																					
4 独自の取組	家庭との連携	送り迎えで保護者と毎日会うことを生かし、密に連絡を取る。	・幼稚園は家庭と連携して保育をすすめているか	そう思う・大体そう思う 保護者が98%	⇒	・ほとんどの保護者が、家庭と連携していると感じてくださっている。 ・ホームページや園便りでの発信が出来ていると評価してくださっている保護者がほとんどである。ホームページの記事の量に学年差があることが指摘された	・引き続き密な連携に向けて努力するとともに、連携が不足していると感じている保護者との信頼関係を結べるよう関わっていく。 ・ホームページでの発信を園全体でし、学年差が起きにくいようにする。	⇒	・密に情報発信をしてることをこれからも大切にしてほしい。	・地域の子どもたちの状況を把握し、幼稚園の良さを広め、園児獲得に協力していきたい。															
	情報の発信	保育後の保護者全体への話、ホームページの密な発信、保護者との個別の話などを充実	・幼稚園は教育方針や子どもの様子をわかりやすく伝えているか	そう思う・大体そう思う保護者が96%																					